

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地		
専門学校日本デザイナー学院		昭和52年10月1日		野口 朝夫		〒 150-0031 (住所) 東京都渋谷区桜丘町4-16 (電話) 03-3770-5581		
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地		
学校法人呉学園		昭和52年10月1日		宋 成烈		〒 150-0031 (住所) 東京都渋谷区桜丘町4-16 (電話) 03-3770-5581		
分野	認定課程名		認定学科名		専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度	
文化・教養	デザイン専門課程		イラストレーション科		平成22年度	-	平成27年度	
学科の目的		本学科は、アナログ、デジタル等の技法で幅広いイラスト表現を身につけ、イラストが描けるデザイナーとして、デザイン業界へ就職できる人材育成を目的とする。						
学科の特徴（主な教育内容、取得可能な資格等）		本学科では、集中型カリキュラムで商業イラストからコミックイラストまで、イラストにおけるさまざまな表現とそれらを実現するための技法を習得します。グラフィックデザイン、キャラクターデザイン、背景描写なども総合的に学ぶことで、活躍できる業界の幅が広い、グラフィックデザイナーもできるイラストレーターを目指すことが可能です。 取得可能資格は以下の通り。Photoshop®クリエイター能力認定試験,illustrator®クリエイター能力認定試験,アドビ認定プロフェッショナル,DTP検定,DTPエキスパート認証試験,色彩検定（文部科学省認定）,Webデザイナー検定,CGクリエイター検定,POP広告クリエイター-技能審査試験（厚生労働省認定）,ウェブデザイン技能検定（国家検定）,画像処理エンジニア検定 など						
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数		講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入	2,400 単位時間 - 単位	540 単位時間 - 単位	840 単位時間 - 単位	- 単位時間 - 単位	- 単位時間 - 単位	1,020 単位時間 - 単位
	生徒総定員		生徒実員(A)	留学生数（生徒実員の内数）(B)	留學生割合(B/A)	中退率		
80人	52人	8人		15%	0%			
就職等の状況	■卒業者数(C)		25人					
	■就職希望者数(D)		18人					
	■就職者数(E)		18人					
	■地元就職者数(F)		0人					
	■就職率(E/D)		100%					
	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)		0%					
	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)		72%					
	■進学者数		1人					
	■その他							
	就職活動の継続やフリーターとして収入を得ながら作家活動続ける。帰国する。など							
(令和6年度卒業生に関する令和7年5月1日時点の情報)								
■主な就職先、業界等								
(令和6年度卒業生)								
主な企業：株式会社クラップス・株式会社アートン・株式会社ニケールなど、広告・WEB・服飾分野のデザイン業界、ゲーム業界、そのほか一般職（販売・事務）								
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価：無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 評価団体：- 受審年月：- 評価結果を掲載したホームページURL：-							
当該学科のホームページURL	https://ndg.ac.jp/course/illustration							
企業等と連携した実習等の実施状況（A、Bいずれかに記入）	(A：単位時間による算定)							
	総授業時数				2,520 単位時間			
企業等と連携した実習等の実施状況（A、Bいずれかに記入）	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数				0 単位時間			
	うち企業等と連携した演習の授業時数				240 単位時間			
	うち必修授業時数				2,400 単位時間			
	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数				0 単位時間			
	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数				120 単位時間			
	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)				0 単位時間			
	(B：単位数による算定)							
	総単位数				- 単位			
	うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数				- 単位			
	うち企業等と連携した演習の単位数				- 単位			
うち必修単位数				- 単位				
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数				- 単位				
うち企業等と連携した必修の演習の単位数				- 単位				
(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)				- 単位				
教員の属性（専任教員について記入）	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを合算して六年以上となる者（専修学校設置基準第41条第1項第1号）				12人			
	② 学士の学位を有する者等（専修学校設置基準第41条第1項第2号）				3人			
	③ 高等学校教諭等経験者（専修学校設置基準第41条第1項第3号）				0人			
	④ 修士の学位又は専門職学位（専修学校設置基準第41条第1項第4号）				2人			
	⑤ その他（専修学校設置基準第41条第1項第5号）				4人			
	計				21人			
	上記①～⑤のうち、実務家教員（分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定）の数				17人			

1. 「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

（１）教育課程の編成（授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。）における企業等との連携に関する基本方針
企業やビジネスパーソンとの連携を強化し、その内容を授業等に反映、活用する。スピード感を持って、時代のニーズに応えられるカリキュラムを改善・整備し、即戦力となるクリエイターの育成を目指す。

（２）教育課程編成委員会等の位置付け
※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記
学校関係者委員会の答申と各科カリキュラム編成委員会の要望等を踏まえ、教務課長が教育課程編成委員長となり、別紙添付資料(位置づけに係る諸規定)の①～⑤に従って実施する。

（３）教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和7年3月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
野口 朝夫	専門学校日本デザイナー学院 【校長】	令和6年4月1日～令和7年3月31日（1年）	－
宮脇 裕子	専門学校日本デザイナー学院 【教務課課長】	令和6年4月1日～令和7年3月31日（1年）	－
川村 順一	文京学院大学 経営学部/コンテンツ多言語知財化センター客員教授	令和6年4月1日～令和7年3月31日（1年）	②
桑 和美	公益社団法人日本パッケージデザイン協会	令和6年4月1日～令和7年3月31日（1年）	①
木下 貢二	公益社団法人商業施設技術団体連合会	令和6年4月1日～令和7年3月31日（1年）	①
石井 浩一	IDOイシイデザインオフィス株式会社	令和6年4月1日～令和7年3月31日（1年）	③
縄手 和弘	有限会社アンチ	令和6年4月1日～令和7年3月31日（1年）	③
土井 昌徳	株式会社HERE	令和6年4月1日～令和7年3月31日（1年）	③
角 範昭	有限会社 クウデザイン	令和6年4月1日～令和7年3月31日（1年）	③
新里 真一郎	株式会社ロケットスター	令和6年4月1日～令和7年3月31日（1年）	③
小高 みちる	有限会社デジタルノイズ	令和6年4月1日～令和7年3月31日（1年）	③
レモン水銀	テクノアート株式会社	令和6年4月1日～令和7年3月31日（1年）	③

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。
（当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「－」を記載してください。）
①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員（1企業や関係施設の役職員は該当しません。）
②学会や学術機関等の有識者
③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

（４）教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期
（年間の開催数及び開催時期）
年2回 （10月、3月）
（開催日時（実績））
第1回 令和6年9月25日 16：00～17：30
第2回 令和7年3月11日 15：00～16：30

(5) 教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

1) コンペティション／外部発表の推進

実施事例

- ・全学科において授業内にコンペ応募プロセスを導入。卒業後も見据えて、外部発表をするという機会を多く設ける仕掛けを講じている（教務）。
- ・昨年度からの改善点

→途中経過の提出機会を増設し、つまずきの早期把握。また、公共性を意識した作品づくりを通年で指導（SV）。

→コンペに集中する運用（INT）。

効果

- ・全体の応募者が増加する中、本校からの入選を毎年確保（SV）。
- ・講師の意識向上により、現場目線で学生を牽引。状況は向上していると考えられる（桑）。

検討提案

- ・「やる気はあるが自信がない」層への背中押しをどのように行っていくか。成功体験の創出機会を設ける（木下）。

2) AI・デジタルツールの活用

実施事例

- ・生成AIの登場以降、現場での利活用の活性化に対応できるよう、学校としてもカリキュラムの中でAIを必ず利用する課題を設けるなど、AIに対する積極的なアプローチを進めてきている。すでに運用を開始して3年が経過し、AIの活用は活性化している。（教務）

→AIをアイデアの壁打ち“アシスタント”として活用（G）。

→打合せ中の3DCG即時修正といった現場ニーズを踏まえた演習（INT）。

効果

- ・ツールに頼り切らない創造性・目利きの育成に寄与（小高）。
- ・後述の通り、AIを活用する際に生じる著作権などの問題についても徹底する方法をきめ細やかに検討（小高）

3) 課題設計・ワークフローの改善

実施事例

1)で前述した検討事項に対する対応策として、後期より実際に課題設計やワークフローの改善に着手。それぞれ効果が出始めている。

- ・自己作品→発想展開→ラフ絞り→最終制作の一貫フローを明示（G）。
- ・依頼書・仕様書を課題の主軸にし、“好き”偏重を回避（SIL／M／CIL）。
- ・iPhone等からジンバル・ログ撮影・カラーグレーディングへ段階的高度化。

効果

- ・実務フロー準拠の思考・制作手順が定着。全員完走（SIL／M／CIL）。
- ・活発な課題提出につながった（各科）

検討提案（出席者）

受け手の意識・双方向性の強化（縄手・SG／SIL）。

4) 表現の伝達力・プレゼンテーション

実施事例

- ・各課題でプレゼンを実施し、「伝える」を重視（IL）。
- ・客観性や“語られる”作品観を重視し、既存外メディアも想定（IL）。

効果

- ・企画意図の言語化が進み、発表力が向上（IL）。

5) 学習支援・フィードバック／学科横断・相互学習

実施事例

- ・個別添削を録画しオンデマンド視聴を可能化（SIL／M／CIL）。
- ・途中経過提出の増設で早期支援を実装（SV）。
- ・就活第1ピーク（2月）に合わせた意識づけと締切設計（M）。
- ・同一課題を複数学科で実施し、傾向差と強みを可視化（縄手）。

効果

- ・理解定着と授業外学習の質向上。学生から好評（SIL／M／CIL）。

検討提案（出席者）

- ・他科間交流機会の創出（縄手）。

6) 著作権・情報倫理（IR）

実施事例

- ・日常授業＋特別授業で継続指導。違反時の処分を含め厳格運用を継続（教務）。
- ・ダブルチェックの手順指導（小高）。
- ・学生同士の相互チェック（検索）文化が形成（教務）。

検討提案（出席者）

- ・チェックシート添付の必須化検討（小高）。
- ・ルールについての周知徹底（留学生へは翻訳AI活用）（桑）。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

（１）実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

可能な限り、学生の卒業後の進路となるデザイン業界で、実際に彼らが仕事として取り組む可能性が高い業務内容を授業内で経験できること。また、その業務において事前に身に付けておくべき技術や知識を得ることができることを重視している。

（２）実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

連携先の企業が実際に請け負う仕事を題材とした授業及び制作課題を設定することで、学生がデザイン業界の実際の仕事を授業を通じて学生時代に経験できること。また企業が仕事の成果物として社会に送り出した制作物と、学生が制作した作品を比較検討し、より具体的な問題点の把握や長所の発見等に繋げる機会を創出し、学生の評価に反映している。

（３）具体的な連携の例※科目数については代表的な５科目について記載。

科 目 名	企業連携の方法	科 目 概 要	連 携 企 業 等
デザインリテラシーⅡ	教育課程編成委員会の参画、および授業運営	広告を中心とした課題制作を通じて、グラフィックデザインの技術を習得。タイポグラフィや写真、イラストを総合的に扱い、思考に基づくデザイン力と伝える力を養う。実務に近い制作プロセスで意欲と理解を深める。	株式会社ロケットスター
ビジュアルデザインワーク	教育課程編成委員会の参画、および授業運営	「創ること」「伝えること」を意識し、イラストスキルとグラフィックデザインを融合させた実践的な課題に取り組む。アイデアの定着力や表現力、発言力を養い、プレゼンや制作を通してコミュニケーション能力と責任感を育む。	有限会社 アンチ

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的にやっていること。」関係

（１）推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

専門学校日本デザイナー学院における職業実践専門課程に伴う研修等に係る諸規程に基づき、企業と連携し、デザイン専門学校の教員として必要な専門技術及び実務に関する知識等を身に付ける。

（２）研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名：	LMS(Learning Management System)Schoo Swingのキャリア進路指導への利活用について	連携企業等：	株式会社Schoo
期間：	2025年2月下旬	対象：	全教職員
内容	自律的なキャリア形成を学生に促すための補助教材システムとして、LMSを活用する事例等の講習		

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名：	写真基礎、デザイン基礎講習	連携企業等：	公益社団法人日本写真家協会他
期間：	2024年5月下旬	対象：	全職員
内容	基礎を学び、様々な視野でクリエイティブの幅を広げることを目的とし、教育に活用		

研修名：	キャンパスにおけるハラスメント防止対策研修	連携企業等：	公益財団法人２１世紀職業財団
期間：	2025年2月中旬	対象：	全教職員
内容	アカデミックハラスメントを中心とした昨今の事例と、起こさないための対策講座		

（３）研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名：	生成AIツールの最新動向	連携企業等：	検討中
期間：	2026年2月ごろ	対象：	全教職員
内容	発展スピードが加速するAI技術の現在と、クリエイティブ業界での最新事例を学び、教育に活かす。		

研修名：	写真基礎、デザイン基礎講習	連携企業等：	公益社団法人日本写真家協会他
期間：	2025年5月ごろ	対象：	全職員
内容	デザインの基本的なツールの習得と、スキル向上、教育の現場で利活用する		

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名：	コミュニケーション能力開発研修	連携企業等：	株式会社インソース
期間：	2025年中	対象：	全教職員
内容	Z世代以降に求められるコミュニケーション能力と、教員が世代間ギャップを超えるためのコミュニケーション能力の習得		

研修名：	キャンパスにおけるハラスメント防止対策研修	連携企業等：	公益財団法人２１世紀職業財団
期間：	2025年中	対象：	全教職員
内容	昨年度の基礎研修をもとに、応用的なハラスメントの防止対策講座を実施		

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

学校関係者評価委員会は、自己評価結果、カリキュラム、シラバス等についての評価を、校長、事務局長、教務課長、総務課長、学生課長に伝え、改善等の助言をする。講師会議、学年会議、カリキュラム会議、担任会議、科目担当者会議等は、学校関係者評価委員会の評価を踏まえて、カリキュラム、シラバス等について具体的な改善案を作成する。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	教育理念・教育目標は示されているか／学校の特色は示されているか／学校の将来構想は示されているか／学校の理念・目的・特色などが学生・保護者に周知されているか／各科の教育目標、人材育成は学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか
(2) 学校運営	運営方針は定められているか／運営方針に沿った事業計画が策定されているか／運営組織や意思決定機能は効率的なものになっているか／人事や給与での処遇に関する制度は整備されているか／意思決定システムは確立されているか／業界や地域社会に対するコンプライアンス体制が整備されているか／教育活動に関する情報公開が適切になされているか／情報システム等による業務の効率化が図られているか
(3) 教育活動	教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか／カリキュラムは業界の人材ニーズに対応しているか／学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか／キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか／定期的にカリキュラムの見直しはなされているか／関連分野における実践的な職業教育が体系的に位置づけられているか／成績評価の基準は明確になっているか／職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか／授業評価は実施されているか／資格取得等に関する指導体制やカリキュラムはできているか／人材育成目標の達成に向けて授業を行う講師を確保しているか／関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務を含む)を確保するなどマネジメントが行われているか／関連分野における先端的な知識・技能等を取得するための研修や教員の指導力育成や向上のための取組が行われているか／職員の能力開発のための研修等が行われているか
(4) 学修成果	就職率を向上させるための施策は図られているか／資格取得を向上させるための施策は図られているか／退学者を減らすための施策は図られているか／卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか／卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校のエデュケーションの改善に活用されているか
(5) 学生支援	就職に関する支援体制は整っているか／学生相談などの支援体制はどうか／学生への奨学金等の経済的支援はどうか／学生の健康管理はどうか／課外活動に関する支援体制は整備されているか／学生寮等の支援体制は整備されているか／保護者と適切に連携しているか／卒業生への支援体制はあるか／社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか／高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか
(6) 教育環境	施設・設備はカリキュラムに対応出来ているか／学内外の実習設備、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか／防災体制は整っているか
(7) 学生の受入れ募集	学生募集活動は適正か／学生募集に教育成果は反映されているか／入学選考の時期・基準・方法は適正か／納付金は妥当なものとなっているか
(8) 財務	中長期的に財務基盤はどうか／予算・収支計画は有効かつ妥当か／会計監査は適正に行われているか／財務情報公開の体制整備はできているか
(9) 法令等の遵守	法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか／個人情報に関して、その保護のための対策がとられているか／自己評価の実施と問題点について改善に努めているか／自己評価結果を公表しているか
(10) 社会貢献・地域貢献	教育資源や設備を活用した社会貢献はなされているか／学生のボランティア活動に対する支援はどうか／地域に対する公開講座・教育訓練の受託等を積極的に実施しているか
(11) 国際交流	留学生の受け入れ・派遣について戦略を持って行っているか／留学生の受け入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか／留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか／学習成果が国内外で評価される取組を行っているか

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

■昨今の社会情勢の変化に合わせて、「厳しさ」や「学び」というものが変質しているように感じる。また、深い悩みを抱えた学生の増加傾向など、センシティブな対応が必要になる事が多くなっている、という意見をもとに、教職員による丁寧なフォローだけではなく、専門家としてのスクールカウンセラーの配置計画や学生の精神的サポート体制の整備に取り組んでいる。学校の価値を学生たちや社会にどう感じてもらうか、学生の志や主体性を高める仕掛けや、社会との接点を通じた教育の価値向上に一層取り組んでいく。

■生成AIの大躍進や現場での利活用の拡大が進んでおり、各委員より激変する業界の動きに対応する必要性について言及があった。学校としては数年前より生成AIへのカリキュラム対応を進めており、改めて以下のような方針で対応を進めていく。

・アナログからデジタルへの移行時の業界の変動になぞらえると、元々のスキルや知識をもとに、新技術の出現を新たな道具と捉え、教育の本質を見失わずに対応していくことが重要。学ぶツールが変わったとしても、学ぶべき根幹の部分は変わらない。本質的な学びは引き続き提供していく。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名 前	所 属	任期	種別
川村 順一	文教学院大学 経営学部	令和6年4月1日～令和7年3月31日（1年）	学術機関
長田 智行	株式会社 シフカ	令和6年4月1日～令和7年3月31日（1年）	企業委員
犬養 岬太	株式会社光陽社	令和6年4月1日～令和7年3月31日（1年）	地域代表
楠原 幸時	校友会・クスハラデザイン	令和6年4月1日～令和7年3月31日（1年）	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他 ())

URL : <https://ndg.ac.jp/pdf/evaluation/>

公表時期 : 令和7年6月30日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

職能教育における基礎教育と技術教育のバランスを考え、企業や地域と連携しながらカリキュラムや教材の開発を行い、企業課題やグループワークを取り入れ、コミュニケーション能力の向上をはかっている。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	設置者、所在地、連絡先、校長、沿革、教育理念、教員目標
(2) 各学科等の教育	成績評価、進級・卒業条件、授業時間、学期、「専門士」称号付与、主な就職先
(3) 教職員	教職員数
(4) キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育の概要、就職指導体制、実践的職業教育の概要
(5) 様々な教育活動・教育環境	主な学校行事、教育環境、課外活動、校友会
(6) 学生の生活支援	学生相談、健康管理、防災体制
(7) 学生納付金・修学支援	学生納付金、就学支援
(8) 学校の財務	財務の状況
(9) 学校評価	自己点検・評価、学校関係者評価
(10) 国際連携の状況	-
(11) その他	-

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他 ())

URL : <https://ndg.ac.jp/pdf/evaluation/>

公表時期 : 令和7年6月30日

授業科目等の概要

(デザイン専門課程 イラストレーション科)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実験・実習・実技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
1	○			特別講義・HR	課題制作、行事連絡、企業コラボレーションなどの特別授業の制作期間としてまた、生活指導、就職活動などのカウンセリングも行う。国内研修などやイベント実施などにも割り当てられる。	1 2 前後	240	-	○			○		○		
2	○			メディア情報概論	印刷物としてのパッケージデザインは視覚に訴え購買を促す重要な手段であり、近年は高付加価値な表現として再注目されている。本授業では、印刷の基礎を学びながら、環境や社会貢献を踏まえたメッセージ性のあるパッケージ制作方法を実践的に学ぶ。	1 前	60	-	○			○		○		
3	○			イラストリアル解剖学	本授業では「構造」をテーマに、古典から現代に至るかたちの捉え方を学ぶ。人体や動物など多様な対象を通して内部構造を想像し、外からは見えないリアリティを捉える視点を養うことで、造形の理解と発想力を高めることを目的とする。	1 後	60	-	○			○		○		
4	○			キャリアデザイン	将来のキャリアを見据えて自己分析を行い、適性や志向を踏まえて進路を設計する。5年後・10年後を想定し、企業リサーチや就職準備を進めながら、自身の目標に合った思考やポートフォリオを構築し、クリエイティブ職への理解と実践力を高める。	1 後	60	-	○			○			○	
5	○			デザイン概論	変化の激しい社会において、描く力だけでなく、自己理解や社会とのつながりが求められている。本授業では、デザインを表現や技術にとどまらず、思考や対話のプロセスとして捉え、「クリエイティブの価値とは何か」を探究する。	2 前後	120	-	○			○			○	
6	○			ドローイングⅠ	クロッキーやドローイングを通じて身体感覚と感性を活かし、具体的な形の表現を実践する。描くことの本質を考察しつつ、画材に継続的に親しむことで造形表現の基礎を養う。	1 前	60	-			○	○		○		
7	○			ドローイングⅡ	観察・認識・描写のプロセスを繰り返し、形の捉え方を体得する。多様なモチーフを描き、構図・空間把握・構成力を養う。後半は着彩デッサンを通じて色の表現も学び、デッサン力を創作全般の基盤として育てる。	1 前後	120	-			○	○			○	
8	○			ドローイングⅢ	鉛筆描画の技術を高め、ロゴの変形や質感表現、透視図法など多様な課題に取り組む。就活用ポートフォリオに活かせる作品制作を行い、Webコンテンツで復習も可能。想定空間内で自由に描写できる力の育成を目指す。	2 前	60	-			○	○		○		
9	○			イラストレーションⅠ	前期は水彩とアクリルガッシュの特性を理解し、混色や質感表現を学ぶことで自分に合った描画方法を探る。後期は絵画構成力を高め、独自の世界観を持つ作品制作を目指す。	1 前後	120	-			○	○		○		
10	○			イラストレーションⅡ	表現したいことに対しての処理を適切に判断できるよう、複数の画材それぞれの基礎を丁寧に学ぶ。一つ一つの画材の特性を学び自分の作品の方向性、クオリティを高める手段を身につける。	1 前後	120	-			○	○		○		
11	○			イラストレーションⅢ	目的に応じてサイズ・スケジュール・レイアウトを意識し、プロとしての視点でイラストを制作する。ラフスケッチから本制作までの工程を踏み、用途に適したデータ形式で仕上げる方法を学ぶ。	2 前後	120	-			○	○		○		
12	○			デジタルスキルⅠ	Adobe Illustratorの基礎を習得し、2年次以降の応用につなげる。前期はペンツールや図形ツールを中心とした基本操作を学び、後期は作品制作や画面設計、実務に近い入稿データの作成を通じて応用力を高める。	1 前後	120	-			○	○			○	

13	○			デジタルスキルII	Photoshopの基本操作を習得し、デジタルイラストの表現力を高めることを目的とする。画像編集やペイント機能を活用しながら、作品制作を通して応用力を養い、視覚的に訴求力のあるデジタル表現を実践的に学ぶ。	1 前後	120	-			○	○	○	○		
14	○			ビジュアルコミュニケーション	Illustratorを用いてイラスト作品を制作し、業界就職を見据えたポートフォリオを完成させる。前期はポートフォリオの土台を整え、後期は個別課題を通じて苦手表現を克服。コンペ応募～在学中の入賞も目指す。	2 前後	120	-		○		○				○
15	○			デザインリテラシーⅠ	アイデアを具体的造形へと展開する力を養い、デザインとプレゼンの基礎を学ぶ。前期は方法論と基礎演習、後期はCDジャケットやPOPなどの制作を通じて表現力を高め、創造的思考と伝達力を育成する。	1 前後	120	-		○		○				○
16	○			デザインリテラシーⅡ	広告を中心とした課題制作を通じて、グラフィックデザインの技術を習得。タイポグラフィや写真、イラストを総合的に扱い、思考に基づくデザイン力と伝える力を養う。実務に近い制作プロセスで意欲と理解を深める。	2 前後	120	-		○		○			○	○
17	○			WebデザインⅠ	Web制作の基礎を学び、Figmaを用いてワイヤーフレームやWebデザインカンパを制作する。商業テーマに基づいた企画・設計を行い、Webの最新動向を踏まえた実践的な表現力と構成力を身につける。	1 後	60	-			○	○			○	
18	○			WebデザインⅡ	コーディングの基礎を学び、FigmaやNoCodeツールを用いてWebサイトを実装。スマートフォン対応やデザイン重視の制作を通じて、設計・表現・実装まで一貫したスキルを習得し、作品の蓄積と個別スキルの向上を図る。	2 前後	120	-		○		○			○	
19	○			コミックイラスト	パースの基礎を学び、奥行きのある背景イラストを制作する。卒業制作に向けては個別面談を通じて課題を設定し、必要な技術や表現力を高める演習に取り組み、本番に向けた準備を進める。	1 前	60	-			○	○				○
20	○			フォトグラフィー	一眼レフカメラの機能を理解し、写真撮影の基礎を習得する。撮影用ライトを使った基本的なライティング技術を学び、学生のアナログ作品を正確に複写撮影できるようになることを目指す。	2 前	60	-			○	○				○
21	○			産学協同プロジェクト	企業からの依頼を元に実際の制作を体験する。現場のスピード感やクオリティを肌で感じることを目的とする。	2 前後	120	-		○		○			○	
22	○			イラストレーションゼミ	卒業制作として3年間の学びの集大成となる作品を企画・制作する。展示を前提に構成や表現方法を検討し、自身の成果を社会に発信できる作品づくりを目指す。	2 後	120	-		○		○			○	
23		○		キャラクターデザイン	キャラクターデザインの基本を学び、多様なパターンの創作に取り組む。課題を通じて自身の方向性や世界観を構築し、魅力あるキャラクターを生み出す力を養う。	2 前後	120	-		○		○				○
24		○		ビジュアルデザインワーク	「創ること」「伝えること」を意識し、イラストスキルとグラフィックデザインを融合させた実践的な課題に取り組む。アイデアの定着力や表現力、発言力を養い、プレゼンや制作を通してコミュニケーション能力と責任感を育む。	2 前後	120	-		○		○			○	○
合計					科目	2,400 単位（単位時間）										

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件： 本校所定の課程を試験等による評価の上、修了したと認める者には、卒業証書を授与する		1 学年の学期区分	2 期
履修方法： 必修授業		1 学期の授業期間	20 週

（留意事項）

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。